

令和4年、第72回を迎える“社会を明るくする運動”のテーマは、
#生きづらさを、生きていく です。

「生きづらさを、生きていく」に込めた思い



一人ではどうにもならない“生きづらさ”があります。

犯罪や非行の背景にも、“生きづらさ”があることは少なくありません。

自らの過去と向き合い、生きづらさを抱えながらも、生きていく人たち。その姿を受け入れ、生きづらさを包摂するコミュニティが必要です。

立ち直ろうとする人のそばにいて、寄り添うこと。

立ち直りを支援する人たちの活動を、応援すること。

立ち直りを応援するメッセージをフォロー・拡散すること。

そして、立ち直ろうとする人の“生きづらさ”に思いを寄せること。

一人ひとりにできることが重なりあえば、

大きなコミュニティがつくられていきます。

——立ち直ろうとする人が向かうその先に、

もっともっと大きな、“生きづらさを包みこむコミュニティ”を。

“社会を明るくする運動”が目指す、

立ち直り支援の輪に、ぜひ、参加してください。

生きづらさに寄り添い 立ち直りを支援する方法は様々です



理解を深め 見守る

自らの過去と向き合い、罪を償って立ち直ろうとしている人たちへのご理解を、よろしく願います。

寄付で 応援する

立ち直り応援基金は、一口1000円からインターネットで誰でも気軽に寄付をすることができます。仕組みです。寄付金は、全国の草の根の立ち直り支援活動に大切に使われます。



SNSをフォロー拡散

法務省保護局のツイッターやインスタグラム等で、立ち直り支援に関する様々な発信を行っています。

#立ち直り
応援基金

#社明71

#生きづらさを、生きていく。



立ち直れる。その思いをツナグ。

立ち直り応援基金

イベントに参加する



全国では、7月の強調月間を中心に、「社会を明るくする運動」の様々なイベントや広報活動、シンポジウムが行われています。住まいの地域のイベントに、ぜひご参加ください。

立ち直りを支援する 担い手になる

立ち直りを
一番近くで見守る

保護司

保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるボランティアです。地域の事情などをよく理解し、保護観察官と協働して、保護観察を受けている人に面接を通じた助言や指導を行い、受刑者等が社会復帰する環境への働き掛けなども行っています。全国に約4万7000人います。



ほかにも、農福事業者、自助グループなど、立ち直り支援の担い手は様々です。そして、食育、スポーツ、アウトドアだっていい。立ち直り支援には、ダイバーシティが大切です。

社会復帰する人の 居場所をつくる

更生保護施設

更生保護施設は、刑務所などを出た後、帰る場所がない人たちに宿泊場所や食事を提供し、自立に向けた指導や援助を行う民間の施設です。自立準備ホームは、更生保護施設以外に宿泊場所を提供するNPO法人等が営む施設です。

地域のことを
ほっとけない

更生保護女性会

更生保護女性会は、地域の犯罪予防活動や更生支援を行う女性のボランティアです。非行問題を考えるミニ集会のほか、子育て支援活動など、多様な活動を行っています。全国に14万人います。

若い人の視点で
立ち直り支援に参加

BBS会

様々な問題を抱える少年たちと、兄や姉のように身近な立場で接することで、少年たちの成長を助ける青年ボランティアです。全国に約4500人います。

標語コンクール受賞作品

金沢市長賞 仲間なら とめようやめよう そのいじめ

木曳野小学校 6年 舟塚 凧紗

金沢保護観察所長賞 その行動 自分がされたら どう思う？

扇台小学校 5年 宮本 奏空

金沢中警察署長賞 あいさつで ぼくもあなたも 金メダル

金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属小学校 5年 越田 大敦

金沢東警察署長賞 言わないよ 自分が言われて いやなこと

森山町小学校 6年 前田 蓮斗

金沢西警察署長賞 思いやり 広がるつながる 人との輪

緑小学校 6年 山村 雪乃

小さい頃から、
私と世界を隔ててきた“生きづらさ”。
世界は私の全てを拒絶した。

独りでもがいて、
自分も周りも傷つけた私が
保護観察になったのは、高校をやめたとき。

言葉にならない思いは、あふれて、止められない。
その人は、私の“生きづらさ”に触れることなく
でも包み込むように言った。

— 大丈夫。世界は広くて、温かくて、
私もいるんだから、きっと大丈夫。

“生きづらさ”の向こうにあった世界が、
少しだけ近く見えた。
私を拒んでいた世界は、私が拒んでいた世界。
その人の言葉が、世界と私をつないでくれた。

だから今。
今度は、君に伝える。

— 大丈夫。世界は広くて、明るくて、
私もいるんだから、きっと大丈夫。

#生きづらさを生きていく。

社会を明るくする運動のはじまり



社会を明るくする運動
シンボルマーク

戦後間もない昭和24年頃、貧困からくる子供達の非行が、大きな社会問題となっていました。そのとき、東京・銀座商店街の延べ2,000人もの人々が立ち上がり、「不幸な子供達を救ひませう」の立看板を掲げ、真夏の炎天下、犯罪予防と少年保護を訴える「銀座フェア」を開催しました。この市民の活動がきっかけとなって、昭和26年から、法務省主唱の「社会を明るくする運動」が始まりました。

第72回 社会を明るくする運動 金沢市推進委員会事務局
金沢保護区保護司会 金沢市高岡町7-25松ヶ枝福祉館 4階 TEL 076-223-3062 FAX 076-223-3063